

私の留学体験記

広島県立安芸府中高等学校 1年 野村 夏希 (のむら なつき)

留学期間 令和5年2月25日 ~ 令和5年3月10日 (14日間)

留学先 Maryknoll School (ハワイ (都市名)、アメリカ (国・地域名))

私は、今回のハワイ姉妹校交換留学プログラムに参加して、英語力やコミュニケーション、人とのかかわり方などの面で、今の自分に何が必要なのかを知ることができました。

この留学プログラムには、実際に英語が日常的に話されている環境で過ごし、英語でコミュニケーションをとることを通して今の自分の英語力を知るために参加を決めました。留学ができることが決まってからハワイに行くまでの期間では、スピーキングに最も自信がなかったため、英単語の暗記や文法の勉強をしました。

実際にハワイで過ごして印象的なことがいくつかありました。

まず、食生活についてです。ハワイで生活するまでは、パンなど小麦系のものが主食で食卓にお米が出てくることはないと思っていました。しかし、私のホストファミリーの家では週5のペースでお米が出てきたり、日本のお菓子やお茶があったりしましたが、カルチャーショックを受けることはありませんでした。

そして、次に印象的だったことは学校生活です。メリノール高校の一日の授業数は4時間で、一回の授業は1時間20分ありました。また、学校のなかでスマホの使用は禁止されていませんが、各教室にはスマホを預けるスペースがもうけられていました。私は日本の高校でもこのようなやり方が使われると良いと思いました。さらに、授業がないときには中庭や空き教室で自習をしたり、授業の途中で教室を出入りしたりする生徒が多くいました。私はメリノール高校の学校生活は日本の学校生活と違う点が多く、高校よりも大学の学校生活に近いように感じました。

ホストファミリーやメリノール高校の生徒たちとハワイで過ごして、ハワイの生活に慣れることは難しくありませんでした。しかし、やはりコミュニケーションをとることが難しく感じました。英語を聞き取ることと話すことはどちらも簡単ではなかったですが私はスピーキングがいちばん困りました。リスニングは相手が話している大体のことを理解することができたからです。また、スピーキング力があることでもしも相手の話を聞き取ることや理解することができなかった場合も相手に尋ねることができるからです。ホストファミリーやハワイの生徒との会話の中で、反応が相槌や短文で終わってしまい自分の伝えたいことのすべてを言うことができなかつたりもってコミュニケーションをとりたいと思っても遠慮していました。そのため、ホストファミリーとすれ違いがおきてしまいました。今の自分ではネイティブの人達と話すときに毎回、話の内容をすべて理解することができないため、自分から遠慮せずに人に関わりに行くことがコミュニケーションをとるうえで大切だとわかりました。

今回の姉妹校留学を終えて、日常的に日本語よりも英語を聞いていたからリスニングのときに耳があまり疲れなくなったように感じました。くわえて、学校では知ることができないような英語の表現方法や相手が出したことに対してのさまざまな返事の仕方を得ることができました。しかし、リスニングやスピーキングは時間が経つと力が落ちていくため1日のなかで英語にふれる時間を必ず取るようにしようと思いました。そして、今回の経験と振り返りをこれからの英語の勉強や国際交流、留学などに活かして自分を成長させたいです。